

科目名		授業形態	担当教員名	
物理療法学		講義・演習	福林 秀幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
60 時間（3 単位）		30 回	2 年次	通年
授業の目的・概要				
<p>物理療法は物理学的な現象を治療に応用するものであり、基本的な物理学の知識は必須である。            授業ではできるかぎり簡単にそれぞれの必要な物理学の知識について説明をし、その応用としての物理療法の基本的技術、適応、禁忌、方法等を実技を交えながら行う。</p>				
授業の到達目標				
<p>物理療法の仕組みを理解し、症状に併せた治療方法を選択できるようになる。自ら機器を実際に使用する事で実際の治療現場を意識することができるようになる。また、ケーススタディを通して治療選択が行えるようになる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	物理療法の基礎	16	超音波療法(1)	
2	リスク管理	17	超音波療法(2)	
3	物理療法を行うための触診	18	超音波療法 実技	
4	温熱療法(1)伝導熱:ホットパック パラフィン浴	19	電気刺激療法(1)	
5	温熱療法(1)実技 伝導熱:ホットパック パラフィン浴	20	電気刺激療法(2)	
6	温熱療法(2)輻射熱:赤外線療法	21	電気刺激療法(3)	
7	温熱療法(3)エネルギー変換熱:超短波療法 極超短波療法	22	電気刺激療法(4)	
8	温熱療法(3)実技 赤外線療法 極超短波療法 小テスト1回目	23	電気刺激療法 実技 小テスト 3回目	
9	光線療法 紫外線療法 レーザー療法	24	牽引療法	
10	光線療法 実技 紫外線療法 レーザー療法 ケーススタディ	25	牽引療法 実技	
11	寒冷療法	26	マッサージ療法	
12	水治療法	27	マッサージ療法 実技	
13	水治療法 実技 渦流浴	28	ケーススタディ(1)	
14	前期のまとめ1	29	ケーススタディ(2)	
15	前期のまとめ2 小テスト 2回目	30	後期のまとめ 小テスト 4回目	
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	中間試験、学年末試験を行う。		
レポート				
小テスト	20%	前期 2回 後期 2回 実施する		
平常点				
その他				
自由記載	定期試験と小テストを合わせて総合評価し、平均点60点以下を後期に再試験とする。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 物理療法学・実習	石川 朗 他		中山書店	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				